

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071800702		
法人名	有限会社 ケアサービス九州		
事業所名	ふぁみりー菰田		
所在地	福岡県飯塚市菰田西3-9-10		
自己評価作成日	平成28年9月12日	評価結果確定日	平成28年9月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成28年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念のもと家庭的なホームを目指し頑張っています。地域での行事・会合等には積極的に参加をしています。また、ホームの催しは自治会の協力で回覧を活用させて頂いています。昨年から、地域の拠り所、相談場所になればとの思いでカフェを開いています。入居者様ご家族間の交流が生まれ始めました。玄関はいつも大きく開放されていますので、いつでもお気軽においでください。喜んで頂ける食事と、行事(レク)には定評があります。これから安心して満足の日々を支援できるよう、もっともっと努力していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

両開きに分けられた玄関は開放的で、訪問者が訪ねやすい環境づくりが継続している。食事時間や10時・3時も全職員が、一緒にゆったりと過ごす時間を設け、掲示した理念や今月の目標の具現化に取り組んでいる。入居当初は箸を持つこともなかった入居者が、他の入居者と一緒に食卓につき、自ら箸で食事をするまでになっている。昨今、主治医から終末期の告知を受け、訪問看護と連携した自然な看取りは、家族にも満足していただいた。ホームに来所したり家族会に出席する家族も多く、恒例の秋祭りには多くの地域の方々が参加し、認知症カフェの開催も継続するなど、地域の寄り所となっている。又、運営者や施設長が、地域のいきいきサロンやキャラバンメイトなどの講師として、認知症や認知症ケアを周知するなど、理念にある地域社会と共に積極的かつ誠実な事業を展開している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **ふあみりー菰田**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りで、その日のリーダーを中心に「理念」の唱和をする。合わせて、月目標をかかげ支援の統一をはかっている	理念や運営方針、今月の目標の声かけを共有空間に掲示している。食事時間だけでなく、10時や3時も全職員が入居者とお茶を飲み、一緒にゆったりと過ごす時間を設け、理念や目標の具現化に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域でのイベントには積極的に参加している。ホーム内での行事は自治会回覧版を活用させて頂いている。秋祭りには、民生委員、福祉委員、地域の方々の踊も定例となっている。子供会の廃品回収協力も毎回行っている。	運営者や施設長が、地域のいきいきサロンやキャラバンメイトなどの講師を引き受けている。恒例になっている秋まつりは回覧板で開催を知らせ、来訪する地域の方々が増えている。認知症カフェの開催も継続し、地域の寄り所になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして地域の公民館で勉強会の担当(社長)や地区ネットワークに参加(施設長)をしている。認知症カフェを開催。地域の拠り所となるいつでも集える場所づくりに向け努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでのことは、良い悪いに関わらず赤裸々に報告している。意見交換は活発に行われ、情報の共有、良いホーム作りのきっかけの場になっている。新しく相談員、交番のおまわりさん等も加わり、ご家族の参加率も高くなった。	開催日を定例化し、多彩なメンバーの参加がある。前回の会議は参加者から参加人数が多いとの感想があった。ミーティングで原因や今後の対応を話し合ったヒヤリハット等を報告するなど、入居者の現状をつまびらかに報告し、会議録は玄関入口に公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの担当職員とは随時意見交換を行っている。「認知症カフェ」では「なんでも相談コーナー」を担当して頂いた。市職員とは諸手続きの相談ごとで指導頂いている	認知症カフェは、市内に開所している事業所も増えているが、最初に開催した実績がある。市民に認知症や認知症のケアの理解が深まるように、市担当者と連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1の「身体拘束廃止委員会」で、身体拘束「0」の取り組みを行う。ただ今(0)更新中。 ・玄関は施錠しない ・食事時のエプロンは着けない ・尿取りガードシートは目に触れないよう設置	5月の委員会では、ベットの柵を2本設けた時間帯や入居者の状況について話し合い、身体拘束についての理解を深めている。玄関は日中は常に開放され、現在は外出傾向のある入居者はいないが、入居者の動向に常に配慮したケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の支援の中で「虐待」となる言葉づかい、行為の見過ごしはないか、常に気を配り注意・指導を行っている。数回の口頭注意から文書での「業務改善書」を出し、「虐待の防止」意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	飯塚市、市民後見人(第1期生)の修了証書は頂いたが現在のところ活用には至っていない。ご家族が必要とされる時は安心して頂ける対応できる	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する資料をいつでも活用できるように、整備している。管理者は市民後見人の研修で得た知識もあり、今後の活躍も期待できる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族への説明は納得して頂けるまで十分におこなっている。利用者様に至っては家族の希望で対応する事が多い。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見・要望等が出し易いよう玄関に<ご意見箱>を設置している。また、運営推進会議、家族会、懇談会等々、ホームに来られた折にもお話が伺えるよう声掛けをしている。ご家族へのお知らせも毎月送付している。	日頃から来所する家族も多く、日頃の暮らしぶりは随時報告したり、お知らせやふぁみりー通信を定期発行し、入居者や家族の意向を伺う機会としている。秋まつり同日開催の家族会はほとんどの家族の出席があり、今後は家族だけで意見交換できる時間を設ける予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見交換を行う。個々の職員とは食をともにし要望等聞いている。アンケートも実施。職員の声を傾聴する時間を多くとるようにしている。	毎月のミーティングでは、トイレの中に洗剤を置かないなど率直な意見交換が行われている。施設長は運営者からの信頼も篤く、職員のスキル等の現状についても随時報告しながら、職員教育に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の面談や管理者を通して職員の個性等を把握し、より良く働きやすい環境作りに積極的に取り組んでいる。今年から社内勉強会出席者には参加毎に交通費が支給される。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、性別・年齢の制限はない。地域においても個々の能力が十分に果たせるよう勤務面で対処している。また、家庭を大切にすることを優先できる勤務体制に気を配っている。	現任職員の紹介やハローワークを通じて入職している。職員の段階に応じて、リーダー研修や技術能力開発研修等の参加を促し、研修費や交通費の補填等で、其々の職員のスキルアップを支援している。又、月1回の有給取得や昼休みを交互に取るなど、働きやすい職場となっている。退職後も来所する職員が多い。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年間研修計画に必須研修として入れ込んでいる。自治会開催の「人権教育」にも毎年参加。	年間研修計画に人権研修を位置づけ、職員の日々の言葉遣いは、施設長がその都度指導している。月間目標に掲げた声かけを重視したケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人での研修は半期に1回希望出来、受講料、交通費は事業所負担。他に事業所からの研修は平等に受けられるよう人選する。いずれも出勤扱いとなる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県・市の協議会に加入。研修は積極的に参加。他グループホームとの施設交流も行った。また、地域の3施設とはお互いの運営推進会議のメンバーとして交流を深めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、ホーム見学をして頂き納得の上での入居を進めている。入居時は記録を詳細にすることで今までの生活歴が見え、支援の統一性が見えてくる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望に至るまでの家族の苦労や努力を傾聴。ホームと家族が同じ意識を持ち利用者様が安心して生活ができる支援作りをしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の困りごとと心配ごとの解決のための支援を心がけている。また、介護保険外のサービス利用やインフォーマルの支援も視野に入れ対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「もちつ持たれず」の関係と、本人様の出来ること探し、自立の妨げにならない支援を心がけています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の参加、協力を求め了解を頂くこともあるが、ご家族の思いも十分に聴き、ゆとりをもって入居者様との関係が持続できるよう家族の事情に応じた配慮をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人との関係を大切にするためホーム内は自由に使用して頂けるよう配慮している。また、本人様のお誕生日にはご家族も一緒にお祝いをして頂けるよう入居者様・ご家族に合った計画を立てている。	家族と外出し、買い物やビールを飲んで帰園したり、散髪に同行する家族もある。調査日、たい焼きをお土産に来所した家族と自室で談笑する入居者もあつた。家族に出す年賀状の作成も継続している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相撲・高校野球以外は日中はテレビをつけない。昔懐かしい時代劇のDVDを観賞することはあるが、基本、入居者同士の会話や職員との交わりを大切にしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	大半が亡くなられての退去であるため関係が薄れて行っているのが実情ですが「近くに來ましたので」と立ち寄って頂けることも多々あります。嬉しいですね。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人との話を大切にしている。その中から要望や意向が見えてくる。食べたい・見たい・行きたい・したい等々出れば、実行できることは即、行動に移している。	アセスメントシートに入居者や家族から把握した意向や生活歴を記載している。職員を担当制にしたり、ミーティング等を通じて全職員で思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式をとりいれご本人やご家族から今までの生活状況を詳細に伺いアセスメントしている。その内容を全職員が把握できるようミーティング・連絡ノートを活用伝えている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援を基本に、出来ること探しをする。また、本人様の言葉・行動を介護記録に残し、その日の心身の状態把握と、支援の統一をしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎日チェックしている。ケアカンファレンスではその成果と新しい課題を協議、分析する。利用者様・ご家族・職員の意見・要望をまとめ介護計画に反映するよう努めている。	トイレの立ち上がりができにくくなったり、歩行がふらつく等のモニタリング結果を踏まえ、介護計画の作成や見直しを実施している。見直した介護計画は、担当者が家族に詳細に説明し、了承を得ている。昨今の看取りでは、主治医の告知を受けて、担当者会議を開き、介護計画書を作成している。	計画に記載されたサービス内容を短期目標に記載してはいかがでしょうか。毎日のモニタリングで加記や削除できるように具体的なケア内容の記載を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の気づき等は日々の業務日誌・介護記録に記録している。また、職員に対しては支援で理解が必要なことや提案等は連絡ノートに書き出勤時目を通した上業務に入ることを支援の統一をはかる。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が何らかの事情で病院受診が厳しい場合は職員が付き添っている。現在、福岡の歯科に行っている(8月まで4回同行)		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのいきいきサロンに参加。しっかり人気者になった入居者様も。また、子供会の廃品回収では子供に交り汗をかき奮闘する姿も見られます。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人様・ご家族の思いを確認します。 現在往診は、内科診察(月2)・眼科診察(月1)・歯科(週1) 重篤時は救急搬送できるよう救急病院との連携体制もできています。	9名の入居者が1名ずつ診療を受けるため、毎日かかりつけ医による訪問診療があり、連携が十分にとれ、状態変化の対応がしやすい。また、専門医療機関受診は家族に同行をお願いしている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1(木)に看護師による訪問あり。時間をかけお一人おひとりの状態に応じ適切な処置をされる。ホームとの連携は密に取り合っている。 かかりつけ医との連携も良い。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在、入院者はいないが、近隣の病院には時折挨拶に行っている。入居の紹介や問い合わせもして頂いている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化・看取りについてご家族の意向を伺っている。 病院・ご家族・ホームの支援に対する共有を図るうえで同意書を提出されているご家族もある。	終末期に関する意向確認書や看取りマニュアルを整備している。昨今の看取りでは、主治医の告知を受けて、家族の意向を再度確認し、訪問看護と連携しているが、自然の看取りに、家族にも満足していただいた。現在、入居者の7名がホームでの看取りを希望している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成。年間研修計画での必須研修として学んでいる。現在、朝礼後、吸引器の取り扱い方を実践している。また、訪問看護による実践的指導も定期的に受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災・避難・通報訓練を行っている。予告なしで行っているため、緊張感があり良い訓練になっている。また、非常食の賞味期限の点検も定期的に行っている。	先日来所した警察官から、大雨予報に際して市指定の避難場所の説明を受けるが、管理者はそこまでの経路が遮断されること、入居者の現状から最善策についてなどを報告している。1階事務コーナーのロッカー上に非常用備蓄を整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間研修計画の中で「プライバシー保護の取り組み」を必須研修として学んでいる。プライバシー侵害とみられる行動があればその都度、注意指導を行っている。	人としての尊厳や心のふれあいを謳った基本理念を毎日唱和し、日々実践に努めている。入居者の心身の状況に応じた穏やかな対応で、笑顔の入居者が多い。居室入口に掛けられた暖簾越しに声かけするなど、プライバシーに配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居間もない方がたから「お風呂に毎日入りたい」「毎日お漬物が欲しい」等々の声があがった。可能な限り本人様の気持ちを尊重できるよう支援に努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・おやつ・入浴等の時間は決めているが、他は個々に自由に過ごされている。朝食やお茶を度外視して起床やお昼寝される方もおられます。、今までの家庭での生活に近い支援を心掛けている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは、基本本人様に選んでいただくようにしている。一日数回着替えられる方、きちんとお化粧をされる方等おられる中、全く関心のない方もおられる。声掛けはしっかり行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現段階では一緒に食事作りは厳しいが、皮むき、筋とり、盛りつけ、テーブル拭き等準備を手伝って頂いている。食事は職員も一緒にテーブルを囲み同じものを食べます。食後の下膳はそれぞれが行います。	各入居者の心身の状況やペースに沿った声かけや見守りで、献立を話題に穏やかで楽しい食事風景である。入居当初は箸を持つこともなかった入居者が、他の入居者と一緒に食卓につき、自ら箸で食事をするまでになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量のチェック・記録は欠かしません。水分不足、栄養状態の把握には十分配慮しています。体調不調時は高カロリー飲料や調理方法、材料に工夫を凝らし提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせ、声掛け、誘導で口腔ケアを実施。また、希望者には週1での歯科往診でケアをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁があるからとむやみにおむつへの移行はしない。トイレでの排泄を心がけている。また、チェック表にて排泄のパターンを把握、支援している。	自室等で放尿する入居者の排泄のリズムや仕草を把握し、トイレでの排泄を支援している。管理者は尿取りパットの当て方などのスキルや声かけのタイミングを指導し、自費であるリハビリパンツや尿取りパットは効率的な使用に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行う。また、水分や食事に気を配り個々のパターンを把握支援に努めている。困難な場合は、医師の指示を受け対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人様の要望があればいつでも入浴出来る体制は整っている。現在、本人様希望で曜日指定が2名いる。後の方は、その日の体調を伺い声掛けにて支援している。	浴室の中ほどに3方から介助できる個浴槽が設置され、ゆったりとした入浴を支援している。入浴を拒否される入居者はなく、今年度は入居者を4つのグループに分け、地域3か所の温泉に出かけている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車いす使用者(2名)に関しては、昼食後、1時間程度のベッドでの臥床を促している(足の浮腫軽減のため)。他を方はソファで傾眠されたり畳の間でゴロンとなられたり自由に過ごされている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師の管理のもと行っている。また、服薬ミス防止のため管理・服薬には十分な点検・確認を行っている。服薬時は月日・氏名・食前・食後を声をだし確認。服用して頂いている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の楽しみ、嗜好品を理解支援している。職員は、個々の出来ること探にも気を配っています。自立支援がモットーです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員で出かける時はカラオケ・温泉・食事・ドライブと一度に楽しめる場所を選びます。また、日を変え職員と入居者様で食事・温泉に行く事もあります。何を計画するにも全員楽しむことが基本です。今年4チームに分けそれぞれ温泉・食事を楽しみました。「いきいきサロン」も参加。	年間行事計画を作成し、季節の花見や温泉に出かけ、外食を楽しんだり、施設長が講師を務める地域のいきいきサロンに参加している。その折の笑顔満載のスナップ写真が共有空間の壁に掲示されているが、各班に分かれて外出した後は、本人が楽しめたかを検討し、今後につなげている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との買い物はあるが、個人のお金を持って職員と出かけることはほとんどない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の対応はしている。携帯の使用者もいる。手紙は年賀状を書くお手伝いぐらいです。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と居間がワンフロアになっているので、どの居室からも集いやすく、殆どフロアで過ごされている。玄関・フロア等季節感を感じて頂ける様飾りにも工夫をしている。	両開きに開けられた玄関は開放的で、訪問者が訪ねやすい環境づくりが継続されている。玄関前や玄関にはプランターなどに季節の花が植えられ、玄関を上がると小さな机や椅子が置かれ、一息つける場所を設けている。共用空間は厨房を中心に椅子やテーブル、ソファ、畳の間が設けられ、空気清浄機で空調や換気を管理している。食後、椅子やソファで寛ぐ入居者も多い。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にて、ご家族や知人も気兼ねなく過ごして頂けるよう配慮している。職員は個々の部屋には必ず声掛けをして入ることを徹底している。。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様、ご家族の思い思いの部屋作りが出来ている。家具、装飾などは危険でない限り本人様の意思を尊重しています。但し、お仏壇の灯明は電池に変えて頂いている。	居室入口は大きな表札や性別に色分けした暖簾が掛けられている。どの居室も清掃が行き届き、畳敷きの居室もあり、備え付けのベットや自宅から持参したタンス、机、椅子が好みの場所に置かれている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー作りと手すりをつけている。テーブル脇には杖の置き場所を設け安全を確保。「使ったものはすぐ元の場所に」を合言葉に物が障害物とならないよう配慮している。		